ベストクラス選定理由書

作成者：手塚千尋、井上泰雅、窪彩花、佐藤歩実、藤原駿也、松田梨奈、西岡伸紀

科目名称　　国語学Ⅰ （担当教員名：　　菅井　三実　　）	
課　　程　：　学部	開講時期　：　後期
授業形態　：　講義	授業規模　：　31 人～80 人
インタビュー対象教員名　　菅井　三実 （実施日時：　2021 年 8 月 19 日(木)　；　実施場所：Zoom による実施　　）	
インタビュー対象受講者名　　藤岡　衣香、竹中　稜河 （実施日時：　2021 年 8 月 19 日(木)　；　実施場所：Zoom による実施　　）	

選定理由

① 授業のねらいと教員の思いが明確である

この授業のねらいは、国語の先生になるために必要なことを確実に身につけるため抽象的なことをできるだけ具体的に学ぶことである。そして、将来教えることになる子どものために勉強をしなさい、子どものために 100 点の先生にならなければならないという菅井先生の思いが明確であり、受講生にもその思いが伝わっていた。

② 国語学以外の学びがある

授業で何を学んだのか受講生の方に質問したところ、印象に残っていたのは敬語の学習であった。国語の先生になるためだけでなく人として役に立つ知識まで学ぶことができる授業であることがわかった。また、教える立場になる受講生にとっては、菅井先生の授業作りについても学ぶことができる機会であった。国語という縛りはなく、先生として大切なことを教え、良いと思うことを取り入れて欲しいという菅井先生の思いが受講生に伝わっていた。例えば、間違った答えをどうフォローするのか、どのように次の答えに繋げるのか、楽しめる授業にするにはどうしたらよいかなどをこの授業から学ぶことができたそうである。

③ 参加意識の強さ

どうしても抽象的になってしまいがちな内容も、受講生にたくさんの具体例を挙げさせることで、自然と受講生が参加している授業が展開されていた。授業評価アンケートに、当てられるのが少し怖いという声があったため尋ねたところ、同じ質問を色んな人に聞くため様々な意見を出さなければならない難しさがあったという。だが、わからないからといって困ることはなくて、次々に意見を出し合うことで、わからないことを恥ずかしいと思うのではなくて楽しいと思えたという。受講生の積極的な参加意識とわからないことをわからないと言える授業作りができているからだと思った。

④ 教員と受講生の距離が近い

菅井先生と受講生のお二人は楽しそうに話をするようにインタビューに答えてくれた。受講生のお二人は先生の前で答えにくそうな難しい質問にも素直に答えてくれた。これは、教員と受講生との信頼関係があるからだと思った。また、インタビューの最後に受講生から菅井先生に質問がされるなど，気になることをすぐに質問できる雰囲気がインタビューからも感じられた。